

研究課題名	放射線診療における医療被ばくの実態調査及び線量評価と医療被ばくデータベース構築の検討
研究期間	2015年 2月 24日～2016年 3月 31日
研究の目的と意義	放射線診断において、最適化の過程の中で診断参考レベル（DRL）の使用が国際放射線防護委員会（ICRP）により勧告されていますが、このためには、国や地域における被ばく線量の分布データが必要となります。医療施設内部のCT装置、あるいはPACSに格納されている放射線診断のデータを自動的に収集し、データベースに登録するシステムがあれば、実態把握を容易にし、DRL設定を含め、正当化・最適化に利用することも可能になることが期待できます。そこで、放射線診療の実態に関し、複数の医療施設において、各手技の頻度と線量のデータを自動的に収集可能なシステム構築を試みます。また、得られた医療被ばくデータを格納し、放射線防護目的で利用可能なデータベース構築の検討を行います。
研究方法	医療施設において、過去1年間、または本研究期間内の特定期間、あるいは双方の放射線診療を受けた患者さんを対象に、① 調査施設名、② 使用したCT装置の名称、③ CT検査を受けた患者さんの年齢・性別・体重、④ CTの撮影部位・範囲、⑤ CTの撮影方法・撮影条件、⑥ CTの線量のデータを集積し解析を行います。 また、患者さんの個人を尊重し、個人情報厳重に保護し、取り扱いには十分留意し、「疫学研究に関する倫理指針」を遵守して実施しております。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	今回使用させていただく患者さんのデータには、患者さんの住所・氏名など、患者さんを直接同定できる個人情報は含まれていません。また、個人情報保護法及び独立行政法人放射線医学総合研究所個人情報保護規程：26規定第21号、放射線医学総合研究所情報セキュリティ委員会が定める情報セキュリティポリシー（第6版：平成22年4月1日）に従い、資料の保管管理及び利用等に関する措置を行います。 本研究への参加拒否を希望される患者さんは、申し出て下さい。
結果の公表	この研究の結果は、研究に関連する学会や学術雑誌等で発表されることがありますが、その際も対象となった個々の症例の報告はなされず、集計されたデータをもとに得られた結果のみを公開し、個人情報は守られます。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 医療情報室 室長 田中 聖人 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL：075-231-5171（代） FAX：075-256-3451（代）